



一般社団法人

高砂市

観光交流ビューロー

TAKASAGO City Tourism & Visitors Bureau

# 高砂の刻<sup>とき</sup>へ。北前船と 能「高砂」の原点に触る旅

いま、よみがえる！北前船体験と高砂のまち活性化事業





## 日本遺産 「荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～」

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。

また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が謡われています。

これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。



## 北前船と能「高砂」を体験



再現された松右衛門帆を取り付けた、北前船に見立てた和船



「能高砂」(イメージ)





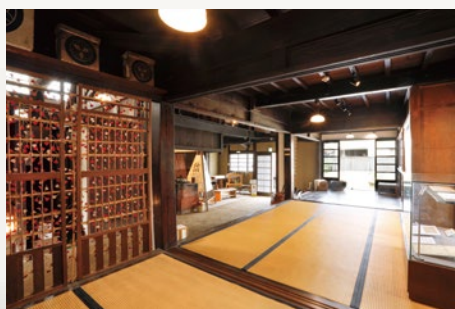


## 工楽松右衛門旧宅（工楽家旧宅）

日本の帆布製造の始祖として知られる初代工楽松右衛門は、高砂町東宮町に生まれました。

江戸時代に、海運業や港湾改修などをおこない、航海に革命的進歩をもたらした「松右衛門帆」の生みの親です。

丈夫な帆布を生みだした工楽松右衛門にまつわる資料などの展示もしています。



## 三連蔵

明治初期に建築された、お祝いの時に使う食器やお膳を収納する納戸です。壁は30cmもの厚みがあります。兵庫県の景観形成重要建築物に指定。

※外観のみ公開



# よみがえる北前船



## 「北前船」観覧体験

### 間近で見る!再現された松右衛門帆の和船

工楽松右衛門のゆかりの地である高砂は加古川河口に位置し、加古川舟運と瀬戸内海運の中継地として繁栄しました。

工楽松右衛門は高砂出身の江戸時代の発明家・実業家で、丈夫でしなやかな帆布「松右衛門帆」を開発し、北前船の航行性能を飛躍的に向上させ、さらに築港工事法を考案し、港湾を整備し海運業の発展に貢献しました。



再現された松右衛門帆

当時の松右衛門帆を再現し、それを北前船に見立てた和船に取り付け実際に使用することで、往事に高砂へも寄港したと考えられる北前船をしのびます。

## 創業大正九年 日本料理 かき幸

大正9年(1920年)に牡蠣を船上で振る舞う「かき船」をルーツとして高砂で創業。

百年の伝統を誇る、旬の牡蠣料理と穴子懷石料理の専門店として、今高砂の地で歴史を紡ぎ続けています。



昭和10年当時のかき船





# 北前船の歴史

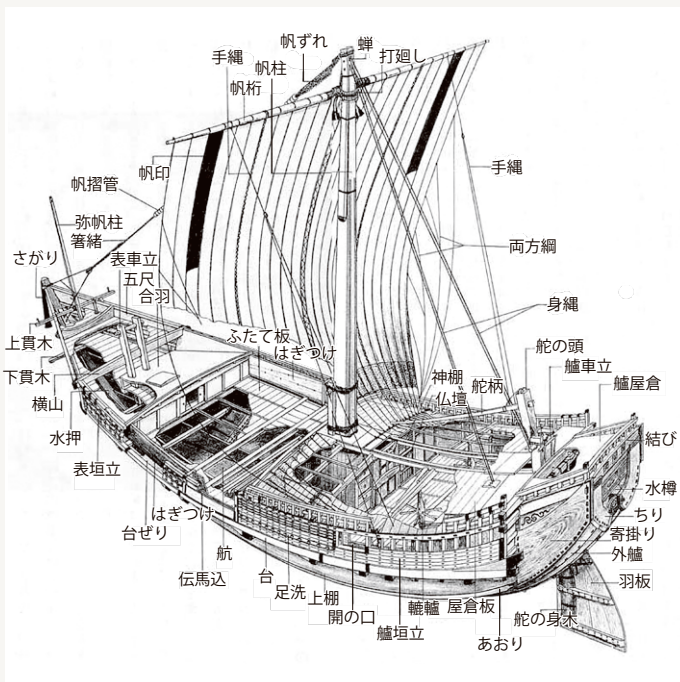
北前船とは、江戸時代から明治時代にかけて大阪と北海道の間を日本海回りで航行した商船の総称で、単に荷物を運ぶだけでなく、寄港地で商品を売り買いしながら商いを行う「動く総合商社」でした。

日本経済を支え、各地に食料、衣料、文化、芸能などの交流をもたらしましたが、明治時代に電信や鉄道、汽船が普及するにつれてその役割を終えました。



帆乾かし中の北前船

(井田家旧蔵古写真・福井県立若狭歴史博物館提供)



北前船解説図



小浜の写真師・井田米蔵が、明治末期から大正期にかけて撮影した北前船

(井田家旧蔵古写真・福井県立若狭歴史博物館提供)



穴子 懷石料理 (4月より9月末)



※鍋と御飯は2人前 牡蠣フライは1人前

名代かき料理 (10月より3月末)



# 謡曲「高砂」の舞台 高砂神社で能「高砂」の神髄を体験



高砂神社 本社

## 高砂神社

謡曲『高砂』発祥の地で、境内には結納に欠かせない「尉と姥」（高砂人形）の由来となる霊松「相生の松」があり、人々の信仰を集めています。

高砂城跡でもあり、玉垣の基礎やひょうたん池の一部に石垣の石材が使われています。



ご神木 いぶき



五代目相生の松

## 結びの神髄に触れる。

### 謡曲『高砂』の舞台で、 能楽師が誘う非公開の世界へ。

神話の時代より、夫婦や恋人に関する物語が数多く残る「結びのまち・高砂」において、謡曲高砂の舞台となった「高砂神社」の能舞台で、通常は入ることができないバックステージツアーと「能高砂」を上演する観世流能楽師の開催するワークショップに参加し、面や衣装に触れることにより、「能高砂」のルーツに迫ります。





# 能「高砂」体験



高砂神社 能舞台

## 謡曲「高砂」について

### — あらすじ —

九州阿蘇の宮の神主友成が、都にのぼる道すがら、播州高砂の浦に立ち寄り、有名な「相生の松」について、根方を清めていた尉と姥にたずねる。

我らは住吉と高砂の松の精であるとあかし、離れていても心の通う夫婦の道を示し、住吉にも立ち寄られよと去っていく。

友成は高砂の浦より舟に乗り、住吉へ向かい、そこで住吉明神が歓迎の舞にて迎えてくれる。

### — 解説 —

室町時代の能作家「世阿弥」の作で、「高砂の松」と「住吉の松」とが「相生の松」であるとして、尉と姥が、もとはひとつ、離れていても、末永くかわらぬ夫婦の愛を寿ぎ、和合長寿の象徴であることから縁起が良いとして結婚式で謡われるようになりました。

謡曲『高砂』  
高砂やこ乃浦舟に帆をあげて  
こ乃浦舟に帆をあげて  
月しろともに出汐の  
波乃瑤路乃島影や  
遠く鳴尾の沖過ぎて  
はや住吉にすみのえ着きにけり  
はや住吉にすみのえ着きにけり

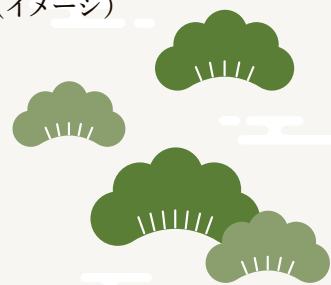
## 能舞台のバックステージ



能舞台のバックステージ

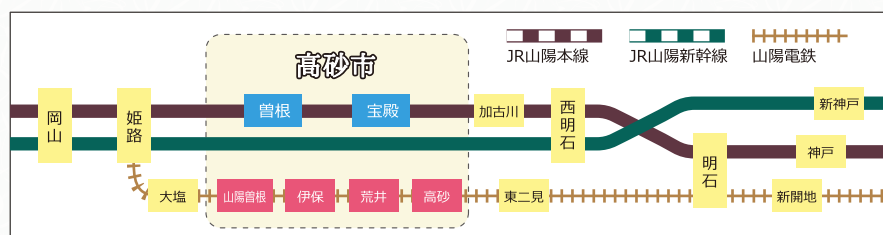


ワークショップ(イメージ)





# アクセスマップ



## 電車でお越しの場合

### JRの場合

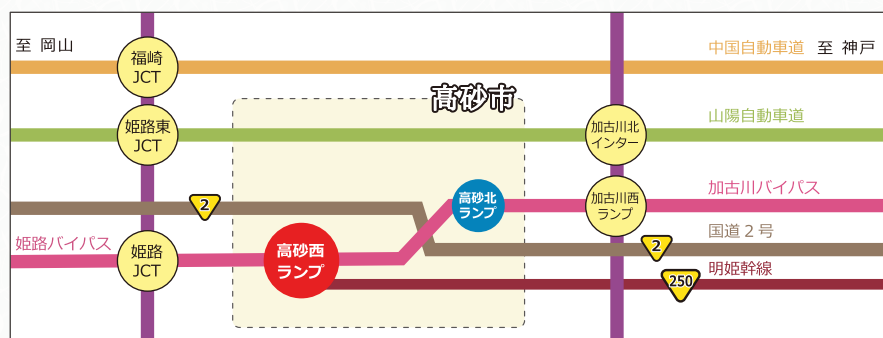
JR 曾根 または JR 宝殿で下車

(※JR 姫路・JR 加古川は新快速停車駅)

### 山陽電鉄の場合

山陽電鉄大塩・山陽曾根・伊保・荒井・高砂で下車

(※山陽電鉄大塩・高砂は特急停車駅)



## 自動車でお越しの場合

### 神戸方面よりお越しの場合

加古川バイパス 加古川西インター または 高砂北ランプ出口 より市内各所へ

### 岡山方面よりお越しの場合

姫路バイパス 高砂西ランプ出口 または 加古川バイパス 加古川西インター出口 より市内各所へ

一般社団法人 高砂市観光交流ビューロー

〒676-0041 兵庫県高砂市高砂町今津町 533-1

TEL:079-441-8076

<https://www.takasago-tavb.com/>

